

# 分野別意見交換会報告書 【民生常任委員会】

開催日時： 令和4年(2022年)4月26日(火)10時00分～12時00分

開催場所： 箕面市役所委員会室(本館3階)

団体名： 箕面市社会福祉協議会(会長、理事、監事 計5名)、同事務局職員(6名)

地区福祉会(箕面小校区、萱野東小校区、東小校区、南小校区、止々呂美小校区、西小校区、萱野小校区) 計 9名

出席議員： 名手委員長、大脇副委員長、山根委員、船瀬委員、神代委員、岡沢委員

傍聴者数：(一般傍聴) 0名、(委員外議員) 10 名

テーマ：(1)地域福祉活動計画について  
(2)ささえあいステーションについて

番号	項目	内容
1	挨拶(社会福祉協議会会長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期地域福祉計画(素案)に対するパブコメを再度見直し、第1期地域福祉計画と照らし合わせてほしい。</li> <li>・第1期地域福祉計画を今一度共有し、再確認していきたい。</li> </ul>
1	第3期箕面市地域福祉活動計画についての説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが互いに支え合い、安心して暮らせるつながりのあるまちづくり 「地域福祉」とは、不安を個人で抱えるのではなく、住民、事業所、学校、支援機関、行政、社協がそれぞれの立場でできることを協力して、孤立する人をつくらぬ取り組み</li> <li>・箕面市の「地域福祉計画」と社会福祉協議会の「第3期箕面市地域福祉活動計画」とは異なるものである。(「活動計画」は1期が5年の計画)</li> <li>・活動計画の策定過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>①校区别地域検討会(住民同士の話し合い)</li> <li>②当事者団体へのヒアリング(聴き取り)</li> <li>③テーマ別検討会(支援機関による事例検討)</li> </ul> </li> <li>・「活動計画」の基本理念と目標は、市の地域福祉計画に連動している。</li> <li>・基本目標1 「みんながつながり支えあう地域づくり」 地域住民、事業所の活動：見守り、声かけ活動、災害時の取り組み</li> <li>・基本目標2 「福祉課題の発見の仕組みと相談体制の整備」 福祉の専門機関、支援機関が中心：相談窓口の体制、複数の支援機関での連携、個人情報取扱い</li> <li>・基本目標3 「地域福祉を推進する活動への支援」 目標1、2がスムーズに遂行するための財源確保、人材確保などの基盤整備、環境整備</li> <li>・【例】8050世帯(80代の親と50代の子どもの世帯で、子世代が引きこもりなどで就労しておらず様々な問題を抱えている世帯) 高齢者くらしサポートへつなげる⇒介護保険 50代のひきこもり⇒生活相談窓口 2つの機関を連携し、新たな支え合い活動を生み出す</li> <li>・窓口に来られない方をキャッチするために、周りの地域の気付きが大切</li> <li>・福祉サービスを縦割りにせず、切れ目のない寄り添う支援が必要</li> <li>・複雑、複合的な支援、様々な分野にまたがる支援</li> </ul>

番号	項目	内容
2	顔の見える総合相談・支援モデル事業及びささえあいステーションの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国が提唱する「地域共生社会の実現」をめざす取り組みとして、本市が平成30年に事業を開始</li> <li>・校区ごとにささえあいステーションを開設 あらゆる相談を聞き、解決に向けて考える(校区毎に週1回)</li> <li>・地域訪問 地域団体、事業所などを社協の校区担当職員が訪問し、関係づくりや情報収集</li> <li>・話し合いの場づくり「ささえあい推進会議」の開催 様々な団体が一堂に会し、地域課題について話し合い、解決に向けて取り組みを検討(年1~2回)</li> <li>・新たな取り組みの支援 「ささえあい推進会議」にて出た課題などを新たな取り組みで解決を図る</li> <li>・このモデル事業の3年6ヶ月の実践からの気付き <ul style="list-style-type: none"> <li>①待っていても困っている本人や家族は相談に来ない</li> <li>②住民が集まることで様々な地域情報が集まる</li> <li>③福祉分野を超えた新たな出合いやつながりができた</li> </ul> </li> </ul>
3	課題の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ささえあいステーションについて、平成30年の当初の想定と今回の箕面市第2期地域福祉計画の構想の比較をおこなった。</li> <li>・平成30年度当初は、4年後にめざす姿として5つの地域包括支援センターと9つの相談所「(仮称)くらしのお困りごと相談所」で14校区すべてに1つずつ相談・支援窓口の開設を目指した。(対象:全ての市民)</li> <li>・まずは、地域福祉推進機能と総合相談を担うモデル事業として、市と社協の地区担当が担当する圏域6校区において、2つのセンターと4つの相談所で、1校区につき1つの窓口を開設した(非常設)。</li> <li>・その後、令和4年度に全市展開となり、地域包括支援センター(高齢者くらしサポート)とささえあいステーション(地域福祉推進機能)はそれぞれ単体で、連携の関係で「制度の狭間にある問題や複合的な課題の解決」をめざす。</li> <li>課題①「顔の見える総合相談・支援モデル事業」の打ち出し方 モデル事業＝ささえあいステーションの運営 開所時間以外は職員は訪問や推進会議等で、ささえあいの関係を構築している。課題を発見した後の支援にスポットが当たりにくい。</li> <li>課題②ささえあいステーションと専門相談機関との連携 平成30年度当初は、個別支援の相談員と社協の地区担当職員が一体的に課題に取り組んでいた。 今後は、連携についての具体的な議論が必要。 コミュニティソーシャルワークについて、箕面で具体的なすすめ方を考える必要がある。</li> <li>・活動計画の推進 専門職による総合相談の仕組みの中で、分野ごとの支援を複雑・複合的な課題を抱えた人への支援につなげる連絡・相談役が定まっていない。 新たに人員を配置するのか、相談員にその機能を持たせるのかを具体的にしていけないといけない。</li> <li>・福祉分野だけでは完結しない。地域の取り組みが進めば様々な市の施策と関わることになるし、時には複数の部署での関わりが必要となる。防災や自治会、健康福祉が部署を横断して1つの課題に向かう必要がある場合がある。</li> </ul>
4	地域福祉活動計画と「つながり」づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画が大事だということがわかりましたが「つながりのあるまちづくり」を具体的に教えてほしい。 例えば小学校区毎にめざす地域活動が大事だと思うがその辺の見解は？</li> <li>→これからささえあい推進会議で決めることだと思う</li> <li>・「つながり」をどうやってつくるかが大事</li> <li>→評価が大事で次に繋げていきたい</li> </ul>

番号	項目	内容
5	地域福祉活動計画とコミュニティソーシャルワークの現状と課題	<p>・基本目標の役割は目標1「みんながつながり支えあう地域づくり」をして目標2「福祉課題の発見の仕組みと相談体制の整備」を遂行して最終目的を達成するようなイメージであっていますか？</p> <p>→事業と計画の流れがリンクするイメージで描いている。困っている人を見つけ出すことが一番難しいので力を入れたい。寄り添う支援が必要だ。</p> <p>・現実に困っていることをキャッチした後のことで課題になってることがあったりしますか？</p> <p>→それについてはCSWを市の方で役割整理していかないといけない方針など決めて欲しい。 →市にCSWについて求めてきたが地区担当者がコミュニティソーシャルワークを現状担っている。 →組織全体でやるのが現状のCSWと考えているが、これから検討が必要という認識。</p>
6	住民相談における生活に密着した相談場所や初期対応の要望	<p>・戦後の親の背中を見て私たちは育った。子どもが親を殺め親が子どもを殺めるなど、孤立も進み色んな問題が起きている。最も生活に密着した身近な相談場所が必要だ。それを連携して問題を早期に解決して欲しい。</p>
7	ささえあいステーションにおける相談の受付方法	<p>・相談を受け付けるにあたって電話での受付が大事だと思う。SNS活用も検討するべき。</p> <p>→SNSの活用については地域福祉活動計画の基本目標2-(1)-3)で決めていて、西小校区では、啓発用にオリジナルマグネットを1軒1軒配ったりしており、今後も地域と一緒に仕組みづくりを進めていきたい。 解決後に市民の声を聞く取り組みを今後やっていきたい</p>
8	ささえあいステーションでの相談対応後のケアについて	<p>・地域福祉活動計画の検証のためにも相談した問題が解決した後は、その結果について市民の声を聞く取り組みもしていただきたい。</p> <p>→困りごとの相談・問題解決後には、結果を発信することで活動を伝えていきたい。 →同様のことが計画書策定時の2度目のパブリックコメントの市民意見にもあったが、計画策定スケジュールの都合上、地域福祉計画には組み込めなかったことは、真摯に受け止め、行政とともに対応すべきだと考えている。</p>
9	コミュニティソーシャルワーカーの負担について	<p>コミュニティソーシャルワーカーは市議会議員と似たような仕事を組織としてこなしていると思う。そしてとても難題な相談も寄せられる事も多いと思うが、従事する方々のケアとかはどういった感じなのでしょう？</p> <p>→組織としてこなしているのでもっと職員で回している。</p>
10	ささえあいステーションや社会福祉協議会への理解と協力を求める	<p>ささえあいステーションの数が少ない。 社協がやっていることを行政にはもっと勉強してほしい。社協は凄く頑張っているが、大きな課題があり、市がどんな協力ができるかを議会で考えていただきたい。</p>
11	地域福祉活動計画とささえあいステーションの設置に関して	<p>・地域での活動が、地域活動計画の具体的にどこにそれぞれが対応しているのか、位置づけがわかりづらい。 ・「ささステ」について他の市は空き店舗など活用したりしている。コミセンはすでに使用者がいて、自治会館は地域のものであるので、市が地域交流の場所をしっかりと確保し、施設維持管理の予算と人を付けてつくっていただいたらこの計画は進むと思う。</p>

番号	項目	内容
12	行政のあり方や社会福祉協議会に関する市議会への要望	行政に対し社協は遠慮しているイメージがある。行政は福祉の増進が最大の仕事だ。議員の仕事は行政の監視、住民の声を市政に反映するように考える、市民の意見を聞いて欲しい。市役所と違い社協の人は話を聞いてくれるが、行政に対してもっと議員がそのことを伝えて欲しい。例えば結婚式を市役所で挙げるような国もある、それぐらい密着した行政をつくってほしい。社協ががんばっている事をもっと行政に伝えて欲しい。
13	ささえあいステーションについて	<p>・ささえあいステーションの具体的な活動事例を地区福祉会の皆様から聞きたい。</p> <p>→今宮は高齢化も進むが若い人も多い。出てくる課題が世代でだいぶ違うのであいあいルームのような場所で地域毎の「ささステ」をやっていただくほうがいいと思う。他の地域のささえあいステーションではカフェがあるのは大変うらやましい。コミセンは同じ団体が使っているのでほぼ使えない。箱物は困るが知らない人でも気軽に行ける場所を作ることがささえあいステーションの一番の課題だと思っている。</p>
14	地域福祉活動の担い手について	<p>・市議会として地域別意見交換会をやっていて、先日も「ささえあいステーションの校区を拡大して整備して欲しい」との意見が出た。それを仰ったのは民生委員さんで、民生委員が一番期待していると感じた。</p> <p>・今は地域の担い手不足が深刻。地域活動の基本は自治会活動のあり方だと思う。先日も自治会を考える会を開催した。その提案を踏まえてまち全体として自治会の活動を進める方向性を議会や行政などで議論して欲しい。</p> <p>・顔の見えるようで見えていない若者への対策が不十分だ。例えばひきこもりなど。若者への政策が行政においてほとんどされていない。議会でもっと議論してもらおうよう要望する。</p>